

「常に新しい商材提供」をモットーに 電子部品・精密メカ部品を 迅速にお客様のもとへ！

三友電子工業



同社の取扱うベアリング

ベアミツミ製のスフェリカルベアリングを、インチサイズの海外規格品も含め、常時豊富に在庫を用意し、他社では通常半年の納期に対し、顧客へ速やかな供給体制をとっている点が強みである。

もうひとつ、同社のアドバンテージは、世界で一番明るい液晶ディスプレイを取扱っていることだ。デジタルサイネージ業界でも、一目置かれる

三友電子工業（横浜市港北区新羽町、三上勇一社長、045・545・7771、<http://www.sanyu-ele.co.jp/>）は、今年で創業26周年を迎える商社である。元は半導体ビジネスから始まり、世界的なベアリングメーカーのミネベアミツミ株式会社社の代理店をはじめ、各種電子部品や、ボールねじの老舗、黒田精工の駆動部品なども精力的に営業している。

多種多様な取扱製品の中でも、特徴的な品目としては、モータースポーツ向けスフェリカルベアリングが挙げられる。人体で言うと関節部分にあたるスフェリカルベアリングは、

車輻にとつては大変な要の部品であり、主にサスペンション周りで使われ、精度と堅牢さが求められる。同社では、ミネ

存在となっている。日照下においても明るく、ハッキリとした視認性があり、テーマパークや路面店のショーウィンドウなどで多数採用され、2020年の東京オリンピックに向けたさらなる需要増が期待される。

このように、多岐にわたってユニークな製品を展開している同社であるが、一方で、従来からの本業である、電子部品、メカ部品を小ロットで提供する基本精神を忘れないのも、顧客から信頼され続ける魅力なのかもしれない。



東京五輪に向けさらなる需要が見込まれる液晶ディスプレイ